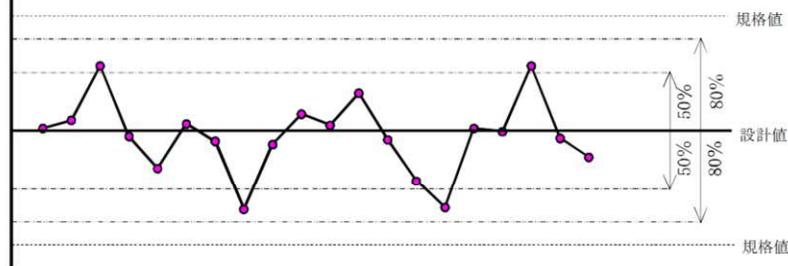


出来形のばらつきの考え方

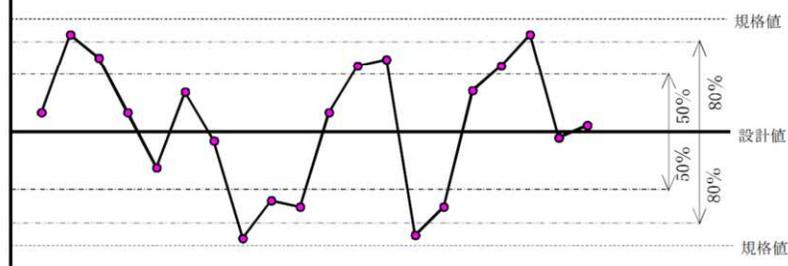
[管理図の場合]

(上・下限値がある場合)

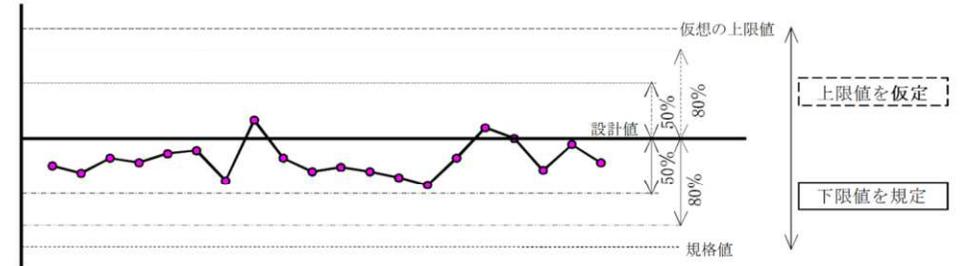
①ばらつきが50%以下と判断できる例



②ばらつきが80%以下と判断できる例



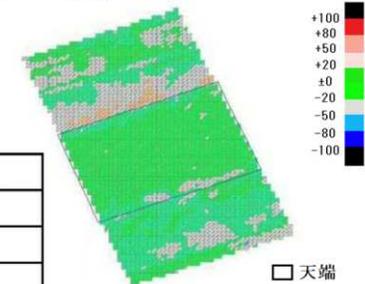
(下限値のみの場合)



③ICT活用工事の例

出来形合否判定総括表の分布図や計測点の個数によりばらつきを判断  
ばらつきが50%以下と判断できる例

天端のばらつき	規格値の+80%以内のデータ数	1000
	規格値の+50%以内のデータ数	997
法面のばらつき	規格値の+80%以内のデータ数	1700
	規格値の+50%以内のデータ数	1360

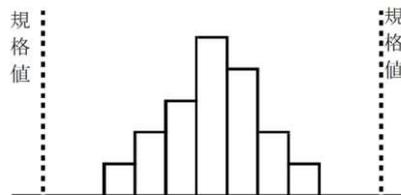


[度数表またはヒストグラムの場合]

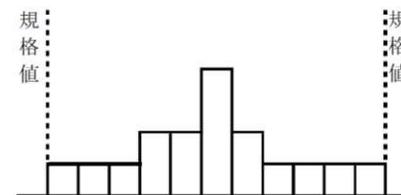
ばらつきが小さい



ばらついている



ばらつきが大きい



※多工種複合工事の取り扱い

- (1) 主たる工種で評定する。なお、多工種で評定対象が重要な場合はこの限りではない。
- (2) 評定は「合併工事」欄を活用する。